

## 令和6年度 大阪府立摂津支援学校 第1回 学校運営協議会 実施報告書

1. 日 時 令和6年6月11日（火） 10:00～12:00
2. 場 所 本校 会議室（中高等部棟2階）
3. 出席者 **〈学校協議会委員〉**  
荒木 寛巳（森ノ宮医療大学教授）大矢 優子（摂津市教育委員会 教育委員）  
松元 広美（(株)ダイキンサンライズ摂津 総務課長）  
佐藤 裕子（茨木・摂津障害者就業・生活支援センター所長）  
林 義平（摂津市鳥飼上自治会 会長） 久保田 夏美（本校保護者）  
**〈摂津支援学校〉**  
校長（村上） 教頭（和田）（竹内） 事務長（川野） 首席（岡村・三牧・坂部）  
首席兼教務部長（日高） 部主事（新地・沖・眞壁）  
**〈傍聴者〉 2名**

### 4. 年間テーマ及び協議事項

「子どもたちの自己肯定感を高める教育をめざして」

主な内容 ①今年度の学校経営計画について ②今年度の使用教科書について ③授業見学（各学部）

### 5. 説明、質問、協議内容等

(1) はじめに [進行：三牧] [記録：坂部]

#### ・配付資料確認

#### ・校長あいさつ

今年度4月に着任。今までの教員経験やボランティア経験を活かしながら学校運営に尽力していきたい。本日は忌憚のないご意見をいただきたい。

#### ・学校運営協議会委員及び事務局の紹介

任期改正により委員の方は2名新規。校内も人事異動あり。

#### ・会長・副会長の選出

推薦により会長は荒木様、副会長は大矢様に決定。

荒木：摂津支援学校開校から2年間校長として赴任しており思い入れも強い。

(2) 学校より報告及び協議 [進行：荒木会長] ※授業見学と使用教科書の順番を入れ替え

#### ① 今年度の学校経営計画について

教員：学校経営計画の中期目標の説明

3本の柱・自己肯定感を高める教育、ICT活用能力の向上、自分のための時間を作る

(HPの資料の通り) [学校経営計画および学校評価 - 大阪府立摂津支援学校 \(osaka-c.ed.jp\)](http://osaka-c.ed.jp)

委員：教育実習の学生を指導するが、人権、観点別評価など気になっている。進路についても保護者にとつて分かりにくいところもあると思うので、忌憚のない意見をいただきたい。

委員：人権の項目の呼名について「～くん、～さん」と呼ぶことについて、今は「～さん」が適当。人権についての知識は更新していかなければならない。また、間違えてしまった時には謙虚に認めて謝罪が必要。授業力向上のティームティーチングの取り組みは進めていってほしい。先生方も楽しんで働いてほしい。

教員：呼名については「～くん、～さん」で、呼び捨てにはしないこと、生活年齢に合わせた呼名をするように、毎月の職員会議で教職員へ伝えている。

委員：人権研修は年何回か実施しているか。

教員：不適切指導アンケート、いじめに関するアンケートをもとに各学部でディスカッション形式の研修を予定。

教員：学校で教員向けに設定した研修と伝達研修を予定している。

委員：子どもたちの年齢に応じた対応が必要。また呼名を「～さん」にするのはLGBTQに配慮してのこと。

委員：校長の思いの詰まった内容で、学校を良い方向にしたいという思いが表れている。

人権の「いじめ」の項目についての児童生徒の肯定回答目標を90%以上に行っているのはかなり挑戦的だと思う。(昨年度80%) 道徳教育をどうしていくのか。

働き方改革について、組織としてどのように対応するのか、何か計画はあるか。

教員：90%は高い目標だが、昨年度この数値を目標にすることで合意されているのでその思いを尊重したい。時間外勤務は個人差がある。昨年度業務の見える化を実施し校務分掌の人数配置や組織の改編を行った。

委員：引き渡し訓練は参観と一緒に行われるのは良い試み。

「わかる授業」について、サブ教員から主担者に意見は言いにくいのではないかと。主担者から感想を求めるほうが良いのでは。

2025年万博の学校参加について、賛成という回答しかできなかったという報道があったがどうか。

教員：学校の万博参加について、断ることはできるアンケートだった。本校は宿泊等に行くことはできないか検討したいということで回答している。

教員：引き渡し訓練について昨年度は9月に実施している。今年は5月の参観日に実施し昨年度より参加者が6ポイントアップしている。

教員：ティームティーチングの主担者へのフィードバックは口頭や紙で実施している。振り返りシートを回覧することで言いにくさを軽減することもできる。様々なツールを利用しながら授業をやりっぱなしにしないように取り組んでいる。

委員：下校時の教職員のバスの誘導は危険。なぜ信号をつけないのか。

体育館が水害時の避難場所になっている。9月18日は地域で見学に来る予定。学校に地域の人間が入ってくる時の対応は。

教員：教員が路上で交通誘導するのは好ましくない。

地域の方の緊急避難時は摂津市が対応することになっており本校教職員が運用することはない。

委員：信号の設置については開校時警察に相談したが信号間の距離の規定などにより難しかった。地域の方にもご協力いただきながら校長にも尽力いただきたい。

委員：引き渡し訓練について、R4は平日に実施し、R5は土曜日に実施することで参加率は上がった。参観日に合わせて実施することによって、参加率は上がったが保護者の車の乗り入れはなく教室にスタンバイした状態からの引き渡しとなった。毎年色々な形での引き渡しをしていただきたい。

居住地校交流について、初回は担任の付添いがあるが2回目以降は保護者の付添いとなる。仕事をしていると難しく、対応は地域の先生にお願いすることになるので親としては参加のハードルが高い。

PTA活動について、本部役員のほかに学年委員を2名ずつ選出しているが負担になっている。PTAの体

制について一新したい。ボランティアで行うには負担が多すぎる。体育祭の受付など学校が手伝ってほしい時だけ参加したり、有償にしたりするなど考えていきたい。

教員の働き方について、昨年度の学校教育自己診断で教員の「学校運営」と「教員連携」の項目で小学部は肯定回答率が高く中高が低く不満がたまっているように感じ心配している。

ティームティーチングについて、サブ教員から主担者に意見は言いにくいと思う。学年全体でそのような時間をとったり、主担者からサブ教員にたずねたりすると伝えやすいのでは。

残業している人がどんな仕事を抱えているのかなど言える時間をとるといいのでは。一斉退庁日があっても仕事が翌日に残るだけ。不適切指導などについても指摘しあえる、働きやすいと思える学校であってほしい。

教員：PTAの在り方については地域の学校も変革している。一緒に検討を。

居住地校交流は文部科学省の取り組みで、地域とともに学ぶことをめざしている。主体は地域の学校にあり、初回は本校担任が付き添い、2回目以降は地域に任せる形となる。

引き渡し訓練について、昨年度の自家用車での引き渡しでは地域に大渋滞を引き起こした。課題を共有し検討していく。

## ②校内見学

小「ことば・かず」中「美術」「家庭科」高「道徳」「ワーク・清掃」「家庭生活」

## ③今年度の使用教科書について（教科書を展示して説明）

教員：小学部1年国語『はらぺこあおむし』 5年図工『たのしい図工工作14 こすりだし・すりだし』

教員：中学部1年理科『体験を広げるこどものずかん4 はなとやさい・くだもの』

1年家庭『職業・家庭 たのしい家庭科 わたしのくらしに生かす』・バケツ稲作成

教員：高等部2年道徳『私たちの未来 未来の私たち』

3年英語『ARで英語が聞ける 英語もののなまえ 絵じてん』

教員：支援学校の教科書は各学校で選定している。その他文部科学省著作の支援学校用の☆本（ほしぼん）は指導書もあり昨今選定がされている。今後デジタル化も予定されている。

教員：校長説明の学校経営計画をもとに意見をいただいた。PTAと共有しながら進めていってほしい。校長室を開放し、小中高の所属を離れて学部間の共有を大事にし、一つの学校として取り組んでほしい。

## （4）事務局より連絡 ※（3）まとめ省略

教員：本日の記録は委員様確認後HPに掲載、委嘱状は後日郵送、次回は9月27日（金）

## 【配付資料一覧】

①次第 ②令和6年度学校運営協議会運営計画 ③学校運営協議会実施要項

④令和6年度使用教科書一覧（各学部） ⑤令和6年度学校経営計画および学校評価

⑥傍聴規則 ⑦学校要覧